

機能を重視したまちづくり ブラジル・パラナ州クリチバ市

われわれが生活しやすい街とはいったいどういう街なのだろうか。ここでいう街は毎日の生活を営む空間であり、自分たちでより良くしていくべき都市空間である。現代社会において都市ではさまざまな人が暮らすようになり、それに比例するようにして環境や衛生、交通、教育、治安などの面で問題が山積されるようになってきた。しかもそれは都市の規模が大きくなればなるほど、より複雑で一筋縄ではいかない問題になっていく。現在、われわれはその都市問題の一つ一つに対して何らかの対応を迫られている状態にある。

環境破壊、地価上昇、ごみ問題、交通渋滞などの都市問題はきわめて深刻である。これらの問題を解決し、都市社会に活力をとりもどすには自治体だけでなくその住民、大学、企業が各方面から協力して、具体的課題に取り組み、着実な成果をふまえていくことが必要であろう。本稿では、ブラジル・パラナ州クリチバ市を事例として都市問題解決にむける試みを探る。

クリチバはブラジル南部パラナ州の州都であり、人口約 170 万人を抱える都市である。周辺の衛星都市も含めて大クリチバ圏を形成し、古くからサンパウロへの通商ルートとして発展してきた。主な産業は伝統的なものとしては、マテ茶やピニャオン（パラナ松の実）の栽培があったが、最近では C I C (Cidade Industrial de Curitiba) と呼ばれる工業団地整備が行われ、工業やサービス業に産業が移行してきている。C I C の整備を契機として、クリチバでは製造業誘致が進み、欧州自動車産業や日系企業を中心として先進国からの企業進出が進んでいる。

そんなクリチバが世界的に知られたのは商業の中心としてではなく、環境対策が優れている点が評価されたものだった。人口集中が始まってスラム化が目立つようになった 1970 年代以降、クリチバは都市問題の解決に向けての改革に着手した。その一環として「環境都市」を旗印として掲げ、ゴミ問題や教育、スラム化の問題に対応した。その成果が認められ、1990 年にごみ交換プログラム (Câmbio verde みどりの交換) で国連環境計画賞、1992 年にはリオデジャネイロで開催された地球サミットで環境対策が表彰された。この 2 つの表象を契機に、クリチバは世界のアーバンプランナーたちの注目を集め、その都市計画が人間中心の環境づくりに連動されていると評価された。

都市問題を考えるにあたって、私はクリチバが実践した住民を市政の中心に据えて公共性を重視した点に注目したい。本稿では同市が着手した改革の具体例を列挙する形をとったが、ひとつひとつの改革を参考にしながらも、その背景にあるまちづくりへの考え方や発想を学んでほしい。その上で、われわれが住む街の身近な都市問題に目を向けることに

意義があり、本稿がその一助となれば幸いである。

主要参考文献

ホーケン、P. (2001) 『自然資本の経済』 日本経済新聞社

レルネル、ジャイメ (2005) 『都市の鍼治療』 丸善

服部圭郎 (2004) 『人間都市クリチバ 環境・交通・福祉・土地利用を統合したまちづくり』
学芸出版社

Eduardo, Eduardo Emílio (2003) *Manual Curitiba-A Cidade em suas Mãos*, Curitiba:
Editora Univer Cidade